ISO9001認証取得
QUALITY ASSURANCE JIC
REGISTERED ORGANIZATION No.0430-ISO9001

molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

「協会要覧」の発行と「がんばれ10万人」の活性化



（財）日本ハンドボール協会常務理事　**平岡 秀雄**

（財）日本ハンドボール協会要覧（規程集）の改訂

日本ハンドボール協会が昭和56年に財団となり、本協会の規程集が整備されました。それ以降も環境の変化に応じて、委員会規程などが改定されてきました。その間、改訂後の文書が保存されてきましたが、改訂の経過を伝承できなくなってきていました。そこで、今回の改訂では改定版を作成するだけでなく、修正案を文書化して改訂の主旨を記録、保存出来るようにしました。

改訂に当たって、本協会の常務理事、理事、参事、委員長、事務職員等が細心の注意を払って参りましたが、まだまだ不備な箇所も有るかと思います。今後も、機関誌読者を含む関係各位のご協力を得て、より良いものへと繋げたいと考えます。

要覧には本協会の委員会規程などが規定されていますが、その中に「会議録を常務理事会に報告する」ことになっています。委員会等の会議録を必ず報告し、本協会の機関誌に掲載すれば、委員会活動などを全国に知らしめることが出来るとともに、本協会の活動を広く理解して頂く上で大きな力になると考えます。

がんばれハンドボール10万人会にご理解を

1. 迫力ある試合観戦を身近で！

本年３月の日本リーグプレーオフでは、会場のフロア席に「がんばれハンドボール10万人会」専用の席を設けました。これは、「特別会員やグランド会員」としてハンドボール界をサポートする方々が、単に金銭的な支援をするだけでなく、会員となるメリットを今まで以上に享受でき、魅力あるものとなるように考えたものです。「特別会員とグランド会員」には、ハガキサイズの特別なADカードを配布しています。今後は本協会が主催する全ての大会に広げて行きたいと考えています。

ハンドボールの熱心なサポーターや、大会に参加している保護者の皆さんがこぞって入会して頂けることを狙っています。選手に手が届くフロアで、選手の荒い息使いを聞きながら観戦出来るので、今まで以上にハンドボールを楽しんで頂けると確信します。

2. 会員増で増収を！

ご存知のように「がんばれハンドボール10万人会」は、ハンドボールのサポーター（選手、役員、「サポーター会会員」）を10万人とし、社会的認知度を高めるためのものです。現在は９万２千人から９万３千人の会員となっています。あと少しで10万人の会員数を達成できます。そのため、上記の特別会員やグランド会員だけでなく、各都道府県協会でも登録できる「ファミリー会員やグループ会員」の制度も立ち上げ、会員確保に努力しています。特に北海道、福島、栃木、千葉、香川、大分県では、大口会員数となっており、この５県で「サポーター会会員」約2600名の80%を占めています。単純計算ですが、各都道府県がすべて100名以上のサポート会を立ち上げ、会員を増やすことが出来れば、目標の10万人は達成できます。都道府県協会の増収も考慮し、是非皆様のご協力を期待します。

平成17・18年度（財）日本ハンドボール協会役員

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
会長	渡邉　佳英	常務理事	江成　元伸	理事	森安　昭雄（新任）
副会長	山下　泉	常務理事	木野　実（新任）	理事	高山　重雄（新任）
副会長	市原　則之	常務理事	川上　憲太	理事	西村　亮治
専務理事	大西　武三	常務理事	平岡　秀雄	理事	宮元　章次（新任）
常務理事	村松　誠（新任）	常務理事	兼子　真（新任）	監事	大野　金一
常務理事	角　紘昭	常務理事	島田　房二（新任）	監事	竹野　奉昭
常務理事	蒲生　晴明	理事	大畑　孝広（新任）	監事	殿水　幸雄
		理事	福地　賢介		

※職務分掌については次号に掲載いたします。

第29回
日本ハンドボールリーグ
『ANA CUP』
プレーオフ 速報

男子：大崎電気、悲願の初優勝！
女子：広島メイプルレッズ、7連覇達成！

第29回日本ハンドボールリーグ『ANA CUP』プレーオフは、3月19日、20日の両日、東京・駒沢体育館で行われた。会場は男子決勝2,412名をはじめ、駒沢体育館を埋め尽くす観衆の声援で沸き立った。

男子はレギュラーシーズン1位の大崎電気が悲願の初優勝、女子は同じくレギュラーシーズン1位の広島メイプルレッズが7連覇を果たした。

今回より、男子は従来のレギュラーシーズン上位3チームによる争いから上位4チームでの争いとなった。女子は7連覇をめざす広島メイプルレッズが、準決勝でソニーセミコンダクタ九州（レギュラーシーズン3位）に大逆転勝ちしたオムロン（同2位）の挑戦を受けた。男女の優勝チームは、4月初旬に中国蘇州で開催された第2回東アジアクラブ選手権に出場した。（レギュラーシーズンの成績、個人表彰、入れ替え戦、記者会見、東アジアクラブ選手権の様子は次号に掲載致します。）

■3月19日（土）

女子 プレーオフ準決勝

オムロン（リーグ2位） 27（13-10, 14-16）26 ソニーセミコンダクタ九州（リーグ3位）

第29回女子プレーオフ準決勝は、オムロン（2位）対ソニーセミコンダクタ九州（3位）の対戦となった。ソニーのスローオフで始まり、オムロン7番冨田の7mスローで先制。オムロンは9番坂元の速攻などで前半12分、5－4とリード。その後もオムロンは、20番劉、19番洪の多彩な攻撃で16分過ぎ10－4と突き離す。しかし、ソニーはオムロンの20番劉、19番洪にWマンツーディフェンスをし、ソニー2番郭のステップシュート、5番田中の速攻で13－10まで追い上げ、オムロンリードで前半終了。

後半に入り、ソニー5番田中のミドルシュートで始まり10分、ソニー9番高栖の速攻で17－17の同点に追いつく。その後もソニーが5番田中を中心に、早いパスさばきで8番水田の速攻や、7番山田のサイドシュートなどで、後半25分には26－21とリードし、ソニーの勝利かと思えた。

しかし、オムロンは26分過ぎから7番冨田の7mスローや、8番佐久川の速攻などで猛反撃をし、残り12秒7番冨田の7mスローが決まり、オムロンが劇的な勝利を飾った。





男子 プレーオフ準決勝：第1試合

大崎電気（リーグ1位） 29（14-13, 15-14）27 ホンダ（リーグ4位）



リーグ1位通過、初優勝を狙う大崎電気と、リーグ4位で7連覇を狙うホンダの決勝をかけての戦いがスタートした。先制したのは大崎8番岩本のミドル、続けて7番永島の速攻でペースを掴むかと思いきや、ホンダも11番谷口の速攻、8番加藤のステップで大崎の波を止める。お互いが譲らない攻防が続き、大崎が1点リードで前半を折り返す。

後半に入り、大崎が21番宮崎のカットインから始まり、5点差までいったが、昨年の王者ホンダもこのまま終わらせないと必死に食いつき、GK四方、吉井の好セーブで徐々に追いつき残り5分で1点差まで詰め寄る所まできたが、力及ばず大崎が逃げ切り、初優勝へ向けて大きく前進した。

男子 プレーオフ準決勝：第2試合

大同特殊鋼（リーグ2位） 28（15-10, 13-17）27 湧永製薬（リーグ3位）

男子プレーオフ準決勝2試合目は、レギュラーシーズン2位3位の大同特殊鋼対湧永製薬の対戦。湧永11番東の7mスローで先制するも、大同は堅いディフェンスで攻撃のリズムに乗り、2番松林のポストシュートや22番末松の確実な7mスローにより、前半20分には12-4と大同リード。しかし、湧永も13番小沢のロングシュート、19番ベテラン山口の

速攻で巻き返しを図る。大同GK16番高木の好セーブもあり、15-10の大同5点リードで前半を終了。

後半に入り、立ち上がり湧永は坪根の好セーブもあり後半6分、3番下川の速攻などで15-13の2点差まで追い上げる。大同もすかさず22番末松のミドルシュートなどで3連続得点。しかしその後、湧永は13番小沢のサイドシュートや9番小藪の速攻などで後半19分ついに同点に追いつく。その後は一進一退の攻防が続き、残り10秒28-27の大同リードで湧永の速攻をGK16番高木がセーブし、1点差で大同が勝利した。





■3月20日（日）

女子プレーオフ決勝

広島メイプルレッズ（リーグ1位）　28（16-10, 12-17）27　オムロン（リーグ2位）

第29回日本リーグ女子プレーオフ決勝は、昨日ソニーセミコンダクタ九州に大逆転で勝利したオムロンと、7連覇をねらう広島メイプルレッズの対戦となった。メイプルは5番大前の速攻で先制。その後も13番杉本のカットインや7番林のフェントシュートなど7番林を中心に多彩な攻撃で、前半20分13-6とリード。オムロンも9番坂元の速攻や19番洪のロングシュートで追い上げるも、メイプルのGK12番浅井の7mスロー3本の好セーブもあり、16-10のメイプルリードで前半終了。



後半に入りオムロンは、メイプル7番林と10番呉にWマンツーをしかけ攻撃のリズムが良くなり、7番冨田のミドル、8番佐久川の速攻で追い上げ、後半17分、19番洪のロングシュートで21-22でついに逆転。しかし、オムロンは後半19分19番洪の退場があり、メイプルはそれをきっかけに10番呉のカットインなどで流れを取り戻し、オムロンの攻撃を封じ28-27の1点差でメイプルの7連覇となった。

なお、最高殊勲選手にはメイプル5番大前典子が、殊勲選手にはオムロン8番佐久川ひとみが選ばれた。

男子プレーオフ決勝

大崎電気（リーグ1位）　28（10-10, 18-14）24　大同特殊鋼（リーグ2位）

今期の最後を締め括る試合、初優勝を狙う大崎電気と8年ぶり10度目の優勝を狙う大同特殊鋼の決戦が、大崎ボールでスローオフ。序盤から両チームとも一歩も譲らぬ攻防が続き、大崎が21番宮崎を中心とした攻撃で点を重ねると、大同は20番白と11番大田のサイドシュートが冴え追撃する。両GKのファインセーブもあり、前半は息もつかせぬスピーディーな展開で、同点のまま前半を終える。

後半に入ると大同20番白のカットインシュートで先制するが、大崎は速攻で徐々に点差を広げにかかる。大同も22番末松が奮闘するが、大崎の多彩な攻撃を止める事が出来ず点差が縮まらない。最後は大崎GK濱口を中心としたディフェンスがリードを守りきり試合終了。大崎電気の悲願の初優勝で幕を閉じた。

最高殊勲選手には大崎21番宮崎大輔、殊勲選手には大同20番白元喆が選ばれた。



photo gallery



控え室で歓談される高円宮妃殿下とエッセイストの阿川佐和子さん



観客席には多くの来賓の方々が



女優の宇野なおみさんもハンドボールのファン。お母さんと売店で活躍。宇野さんが着ているのは中川選手デザインTシャツ



コート最前列には「10 万人会」の特別席が



TV 放送解説の蒲生強化本部長と、久保弘毅 TVK アナウンサー



表彰式のプレゼンター（左 2 番目から竹田 JOC 会長、福田 JOC 強化部長、鶴保日本ハンドボール協会顧問（参議院議員）、浅見 JISS 所長）



マケドニアのレフェリー（ナチェフスキー兄弟）



ちびっ子もメガホンで応援



ハーフタイムショーは東京女子体育大学新体操競技部の皆様



試合終了後にはロビーで選手のサイン会が開催された

第28回全国高等学校ハンドボール選抜大会　速報

表記大会が平成17年3月24日(木)～29日(火)まで、茨城県守谷市、水海道市、板東市（岩井市）の6会場で開催された。男子は興南高等学校（九州・沖縄県）が3年連続4回目の優勝、準優勝 宮崎県立小林工業高等学校（九州）、3位北陸高等学校（北信越・福井県）、浦和学院高等学校（関東・埼玉県）、女子は沖縄県立陽明高等学校（九州）が3年ぶり2回目の優勝、準優勝 四天王寺高等学校（近畿・大阪府）、3位 群馬県立吉井高等学校（関東・群馬県）、文化女子大学附属杉並高等学校（関東・東京都）。優勝は男女とも沖縄県勢で幕を閉じた。詳しい報告は次号に掲載致します。

（大会結果につきましてはスコアールーム p.18 に掲載）



開会式全景

1回戦から最終日まで熱戦、沖縄県男女アベック優勝で幕

茨城県高体連ハンドボール専門部委員長　阿部 富夫（茨城県立石岡第一高等学校）

茨城インターハイ（平成14年）の余韻が残る中、ハンドボールに深い理解のある、守谷市・水海道市・坂東市（岩井市）の3市を会場に、平成16年度第28回全国高等学校ハンドボール選抜大会が行われました。

今大会は男女ともに1回戦から好カードが多く、初日から最終日まで熱戦が繰り広げられました。

男子の戦い

男子においては高得点で、接戦の多いハイレベルなゲームが展開されました。ベスト8に地元茨城県の伊奈と藤代紫水の両校が残り、大いに会場を沸かせました。

準決勝第一試合は3回戦で関東第1代表の法政大学第二高校、準々決勝で東海第1代表の愛知高校を接戦で制した九州第2代表の小林工業と、準々決勝で地元代表の県立藤代紫水高校を5点差で破った北信越第1代表の北陸高校との対戦となり、すばらしいデフェンスとコンビプレーで安定した戦いを見せた小林工業が決勝に駒を進めました。



入場行進する地元2チーム（男子・伊奈高、女子・水海道二高）



開会式で選手を先導する阿部氏

準決勝第二試合は、九州第1代表沖縄の興南高校と、準々決勝までの3試合を37、36、36得点と高いオフェンス力を誇る浦和学院の対戦となり、注目されました。しかし、ダブルスカイプレーを披露するなど終始興南高校のペースで試合は進み、大差で興南の勝利となりました。

九州勢同士の対戦となった決勝戦は、攻撃力で対戦チームを圧倒してきた興南が常にゲームをリードする展開となりました。小林工業も多彩な攻撃とGKを中心とした粘り強いデフェンスでよく健闘しましたが、善戦及ばず、興南の選抜大会3連覇となりました。

女子の戦い

女子においては、関東勢がベスト8に4チーム進出するなど、活躍が光りました。

関東2位の白梅学園は、準々決勝で九州第1代表沖縄の陽明高校と対戦、関東第1代表の昭和学院は、同じくベスト4を賭けて近畿第1代表の四天王寺高校と戦いました。いずれも終盤までもつれる大接戦となりましたが、両試合とも1点差で関東勢が敗れる結果となりました。

準々決勝で中国代表玉野光南と対戦した群馬の吉井高校、九州第2代表大分鶴崎と戦った文化女子大学附属杉並高校は両校とも勝利を収め、準決勝に進みましたが、関東勢の雪辱を果たすことはかなわず、決勝戦進出はなりませんでした。

決勝は準決勝を危なげなく勝ちあがった陽明高校と四天王寺高校との対戦となりました。試合は終盤までどちらに勝利の女神が微笑むか、全く予断を許さない大熱戦が展開されました。前半はロングとポストを中心に得点を重ねた四天王寺が3点をリードして終わり、後半は陽明が非常に高い位置でのプレス気味のデフェンスを行い、それが見事に功を奏してリズムを掴み、陽明ペースで進みました。残り10分からは一進一退の攻防が続き、結果的には陽明に栄冠がもたらされましたが、観客の目を一瞬たりともそらさせない、内容の極めて充実した素晴らしいゲームでした。

大会総括・謝辞

今大会は昭和56年度第5回大会の愛知県勢（男子愛知高校・女子市邨学園）以来の同県チームのアベック優勝という



開会式にて①（左より渡辺会長、大西専務理事、平澤茨城県高体連ハンドボール専門部部長、大川全国高体連委員長）



開会式にて②（右端が会田茨城県ハンドボール協会会長（守谷市市長））

形で幕を閉じました。優勝の栄誉に輝いた両チームには自信と誇りをもって、また、惜しくも敗退したチームには捲土重来を期して、夏の大会へ向けて努力精進して頂きたいと思います。

最後になりましたが、今大会を支えてくださった守谷・水海道・坂東（岩井）の3市の皆様、遠方から会場に足を運び、大会を盛り上げてくださった観客の皆様、そして何よりも日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮してくれた選手に心より感謝申し上げます。

小松市立高等学校女子ハンドボール部　第54回日本スポーツ賞（読売新聞社主催）受賞

平成16年高校三冠（選抜、インターハイ、国体）を達成しました小松市立高校（石川県）が読売スポーツ賞を受賞致しました。授賞式は平成17年1月27日、ホテルオークラで行われました。今号では受賞の報告と喜びの声をお伝え致します。

日本スポーツ賞を受賞して

小松市立高等学校　古橋 幹夫

我々、小松市立高等学校女子ハンドボール部は去る1月27日に日本スポーツ賞を受賞致しました。会場にはアテネオリンピックの金メダリストをはじめ、各競技のトップアスリートの方々が列席されていて、身の竦む想いとともに大きな感動を与えて頂きました。また、三冠という実績をあげた選手達には何よりの大きなプレゼントになりました。推薦をして頂いた日本ハンドボール協会、読売新聞社には本当に感謝しております。さて、この受賞が本当に我々のチームでよかったのかと胸に手を当てて考えてみましたが、努力の点でも「自信を持って」と言えない部分が多々あります。しかし、今後は日本スポーツ賞を受賞したチームとしてのプライドと責任を十分に果たすための精進と努力を継続していきたいと思っています。北京オリンピックの年にはオリンピックチームが日本スポーツ賞を受賞されることを心から願っております。



授賞式会場でアテネオリンピック金メダリスト室伏広治氏と共に（右・古橋氏、左・石立さん）

全日本実業団ハンドボールチャレンジ 2005



新たな実業団大会の模索　―高知県大会で感じたこと―



全日本実業団ハンドボール連盟理事長　工藤 雄三（トヨタ車体）

【はじめに】

今大会は、全日本実業団トーナメント大会から通算して36回目の大会となりました。又、トーナメント大会という名称からチャレンジ大会へ変更になってから10回目の大会でもありました。この大会への参加が、企業内での位置づけに苦慮しチーム数が、減少している事は寂しい事ですが、参加された14チームは、日頃少ない練習時間内でのトレーニングの成果を、テクニックでカバーし、見ごたえのある大変盛り上がった大会となりました。そして今回初めてのトライでしたが、地元高知クラブが参戦して、連日大活躍であったためマスコミが大きく取り上げ、それに合わせて一般客も増え、春の総合運動公園体育館も熱気に満ちて、寒さも吹っ飛ぶ勢いでした。又、高知県協会の皆様や、ミカサ様、大塚ベバレジ様並びに地元企業で支援していただいた皆様方に大変お世話になり、立派な大会が運営できたことを感謝しております。本当にありがとうございました。

【大会全体を振り返り】

組み合わせは、高松宮記念杯全日本実業団選手権大会でも活躍している八光自動車工業を第1シードとし、昨年優勝のデンソーが不参加のため、準優勝の金沢市役所を第2シードとしました。その他の組合せは、1回戦では同地区対戦を避け、普段対戦できないチーム同士での抽選を行いました。貴重な時間を割いて遠方から参加していただいたチームが、1回戦だけで終わることは、1年間一生懸命練習してきた事に対して、発表の場が少なすぎるため、敗者戦を設け1回戦で負けても試合ができるような形式にいたしました。大会初日の懇親会では、チーム代表者や審判団及び高知県協会の皆様、地元協賛企業様とふれあう事ができ、普段では中々話せない裏話も審判団からでて、和やかに情報交換ができました。又、高知市観光連盟様のご好意にて、本場よさこい踊りをも演じていただき、大いに盛り上がった懇親の場となりました。

試合では、持てる実力を如何に発揮できるかがキーポイントであり、仕事優先の日常練習での体力を視野に入れながら、ゲームリードしていくテクニックもこの大会の醍醐味でもあります。先にも書きましたが、地元高知クラブの活躍は目を見張るものがあり、この大会では少し遠ざかっておりましたスピード感があり、観客のどよめきも出るほどのスーパープレーの連続でした。

そして今大会は、高知県のご協賛企業様と大塚ベバレジ様より優勝・準優勝チーム及び敗者戦優勝チームへ特別スポンサー賞が授与されました。又、最高殊勲選手にはスポーツウェアが手渡され、八光自動車工業の泉原正典選手が選ばれ、優勝と合わせて喜びも2倍体感できたようです。

優勝チームの声

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2005に優勝して



八光自動車工業監督　福島　剛志

我々八光自動車工業のハンドボール部員は、選手11名監督1名と大変少ないメンバーで活動しています。関西出身の選手を中心に構成しており、今年度は3名の新人を獲得し、チームも若返り、小粒ではありますがスピードのある選手が加わりました、また、来年度入社が決まっているサウスポーの大森君も加わり、幅の広い攻撃ができるようになりました。ただエースの荻原選手が体調不良で万全でなかったことが大会前から少し不安でした。

2回戦のブラザー工業、準決勝のトクヤマとは全員満遍なく得点を挙げることができ、その中でも新人の泉原選手が縦横無尽の活躍で、コートを走り回り、チーム1の得点源となりました。

大会前より、決勝に照準を合わせて練習をしてきたので、決勝の相手はどこでも良かったのですが、高知クラブとは高知国体前に何度か練習試合をさせて頂き、ある程度のチーム力はわかっていました。しかし、今回は学生の加入でチーム力が上がっていたことには、少々驚きました。決勝での心配は、練習量の不足でスタミナが維持できるかということでした。その心配も、新人の活躍であおられた中堅選手が予想以上に頑張り、良い方向に吹っ飛んでしまいました。決勝では、準決勝まで絶好調だった泉原選手も好調を維持し、8点を挙げる大活躍とGKのこれまた新人ですが、坂本君が要所を締めるキーピングで試合を優位にしてくれました。

その結果、大望の優勝を勝ち取ることが出来て本当に良かったと思っています。日本リーグのチーム数が減少していく中で、我々のような仕事との両立にて奮闘しているチームをも少しでも認められることが多くなるよう、これからも頑張って行きたいと思います。最後に、この大会の運営をして頂いた役員、スタッフの方に感謝して、優勝のご報告とさせていただきます。

試合内容ダイジェスト

【1回戦／2回戦より】

◆ブラザー工業 対 新日本石油根岸

開幕直後の第1試合として、新日本石油根岸とブラザー工業の一戦があり、前半序盤から中盤で6対3と新日本石油根岸がリードし、守りも安定していたため前半はそのままの勢いで乗り切り9対4と大きくリードした。しかし、後半に入るとブラザー工業は5分までに林選手の活躍で3点連取し勢いを取り戻し、一進一退の攻防が続いた。残り4分で新日本石油根岸が2点リードしたが、粘るブラザーも相手ミスから速攻を仕掛けるものの見事同点としてタイムアップとなった。この大会の決まりで延長戦はなく、7mTCでブラザーのＧＫの活躍で２－０とし、開幕早々もつれた試合はブラザー工業の大逆転勝ちとなった。

◆高知クラブの好発進

初出場の高知クラブは、地元の声援を浴び、前半からスピードに乗った組織プレーから次々と得点を決め、キャプテンの澤田選手が12点、山中選手が9点を叩き出し、順調なデビューとなった。

◆トクヤマ 対 豊田自動織機

2回戦ではトクヤマと豊田自動織機戦が息詰まる熱戦となった。前半は豊田自動織機が倉田・杉浦両選手を中心に満遍なく加点し、あまり連取点も取られず3点のリードで折り返した。後半に入っても10分までペースは豊田自動織機にあり、安定感があった。しかし、18分過ぎからトクヤマの怒濤の攻撃が始まり佐伯選手の得点を皮切りに、連取点をとり残り1分30秒で同点とし、残り2秒で劇的な佐伯選手のミドルシュートを決め、タイムUPとなった。豊田自動織機は後半の終盤で足が止まってしまい、悔いが残った試合となった。

【準決勝】

◆八光自動車 対 トクヤマ

八光自動車対トクヤマ戦は、前半立ち上がり8分までに6点八光自動車が連取し、トクヤマの出鼻を挫いてしまい、トクヤマの前半の反撃を8点に押さえ込んだ。後半も泉原選手の早い動きをトクヤマは封じ切れず連取点を与えてしまい、大きく差が開いてしまった。とにかく八光自動車の泉原選手が12得点したこととGK坂本選手の要所を押えたプレーが光る試合だった。

◆高知クラブ 対 金沢市役所

高知クラブ対金沢市役所戦は、取っては入れられるという手に汗を握る大接戦となった。前半から高知クラブはクイックスタートを仕掛け、相手の動き出しを封じる作戦をとり、23分まで同点とした。そこから金沢市役所は、能浦選手のミドルシュートがタイミング良く決まり終盤で突き放した感じで前半を2点リードで終了。後半に入ると、早い攻めの高知クラブに金沢市役所が遅れを取り始め、立ち上がり1分で同点となった。その後すぐに、1点金沢市役所は勝ち越すが、流れを高知クラブが握り始め、ミスを誘い速攻のパターンが続き始めた。17分を過ぎた頃より、高知クラブはカットインとサイドシュートが思うように決まり始め、除々に点差が開き2点のビハインドを金沢市役所が追うようになった。残り2分半より高知クラブの速攻とポストシュートが決まり、昨年準優勝の金沢市役所は万事休すとなった。

【敗者戦総括】

本戦1回戦を惜しくも敗れた6チームが敗者戦優勝目指して凌ぎを削っ



優勝：八光自動車工業


準優勝：高知クラブ


3位：金沢市役所



敗者戦優勝：セントラル自動車

※写真は全て提供写真

た。敗者戦1回戦は新日本石油根岸が日本原子力研究所を若さで圧倒し、日本耐酸壜工業は後半追い上げられたが、前半の貯金で逃げ切り、2回戦へと駒を進めた。

敗者戦準決勝2試合は、前半新日鐵名古屋を圧倒した新日本石油根岸と、同じく前半から終始日本耐酸壜工業を攻め続けたセントラル自動車が勝ち残った。

決勝は接戦が予想されたが、1つ試合数が少ないセントラル自動車が常に先手を取る展開で、田中・貴船両セントラル自動車選手が満遍なく点数を取り、中盤2点差まで追い上げられたが、余裕で攻撃をかわしベテランの阿部選手が落ち着いてダメ押し点を決め、セントラル自動車の敗者戦優勝が決まった。尚、セントラル自動車には、スポンサー特別賞として奮闘賞（スポーツバッグ）が授与された。

【3位決定戦】

◆トクヤマ 対 金沢市役所

前日までの激戦で両チーム共かなり疲労が見えたが、試合巧者の金沢市役所が前半立ち上がり、エンジンの掛かりきらないトクヤマを一蹴して、6分までにカットインや速攻で6対2と大勢を決めてしまったかのように見えたが、トクヤマも目が覚めたように動きに鋭さがでてきて、16分迄に、4連取し6対6まで追い上げた。その後1点ずつ取り合い、7対7の時トクヤマに退場が言い渡され7mTとなったが、トクヤマのGK村上選手がキープし一旦は難を逃れた。しかし1人足りないトクヤマはDFが思うように出来ず、ズルズル4点連取され11対7で前半を金沢市役所リードで終了した。後半に入っても立ち上がりは金沢市役所のペースで進み18分には17対11となり大勢が決まりかけた。その後トクヤマも、4点連取し2点差まですが、落ち着いている金沢市役所は要所で真田選手が後半だけで4点決める活躍で粘るトクヤマを振り切った。

【決勝戦】

◆八光自動車 対 高知クラブ

序盤よりヒートアップした八光自動車工業の泉原選手と高知クラブの澤田選手が共に絶好調で、白熱した試合展開となった。八光自動車工業はフローターで崩しポスト・サイドが決める得点が多く、又高知クラブはクイックスタートを多用し相手のDFが完全でないところを奇襲する攻撃で得点を重ねた。そして圧巻だったのは両GKのスーパーセーブであった。本当に神がかり的なセーブに観客席よりため息と歓声が入り乱れての大声援が沸きおこった。終始八光自動車工業がリードして流れを変えさせずに展開し、前半は八光自動車工業が14対10と4点のリードで終了した。後半は高知クラブも慌てずゆっくりとしたペースから、小気味良いフェイントで相手をかわし的確にシュートを打ち込む作戦に変更し、両チーム共に攻撃回数が15回くらいで前半の約半分くらいの攻撃数となった。効率よく得点を重ね、前半の貯金をいかした八光自動車工業が大きく崩れず優勝を飾った。優勝チームにはスポンサー特別賞として賞品（Tシャツ全員分とスポーツタオル）が贈られた。又、MVPも選抜したが、最後まで八光自動車工業の泉原選手とGKの坂本選手で争ったが、決勝で8得点を挙げた事が評価の対象となり泉原選手がMVPを受賞した。

第9回アジア男子ジュニア選手権 フィジカル報告



全日本男子 U-19 トレーナー　尾中　祐三（トレーナーズフォーアスリート）

4月号に続き表記大会の報告を致します。今号では同チームトレーナーの尾中氏のフィジカルレポートを掲載いたします。パワーとスピードが要求される世界で戦うため、現状を少しでも理解して頂き，今後益々ジュニア強化が活気を増すことのできますように願ってやみません。

大会までのスケジュール

月	2003.11	12	2004.1	2	3	4	5	6	7	8	9
合宿	選考合宿						選考合宿		強化合宿		直前合宿 アジア選手権
実施内容	・MAX 測定 ・トレーニング指導 ・選手の所属チームに測定結果を送付					・選手の所属チームにトレーニングの依頼を送付	・MAX 測定 ・トレーニング指導 ・選手の所属チームに測定結果を送付		・MAX 測定 ・トレーニング指導 ・選手の所属チームに測定結果を送付		

ストレングストレーニング実施内容

選手の筋力レベルを測定するのに合宿時にMAX（1RM）測定を行なった。種目として、上肢の総合的な筋力を測定でき、測定が容易な（ほとんどの選手が行なった事があり、わかりやすい）ベンチプレスを行なった。これはハンドボールの場面においては、例えばディフェンスの際相手を強く押し出したりはじいたりする動きに関係する。自分で持ち上げる事ができた最大の重さをMAXとし、体重割り、前回からの伸び率を評価した。

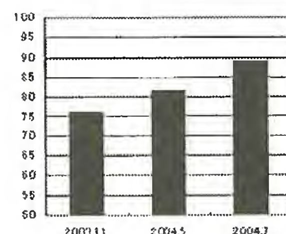
まずMAXだが、これは単純に自分の持ち上げる事ができた重さである。ハンドボールは例えば柔道やボクシングのように体重による階級がないので、体の大きさに関わらず強い選手が有利という観点での評価である。このMAXがチーム平均値で2003年11月は76.1Kg、2004年5月81.6Kg、7月88.6Kgであった。

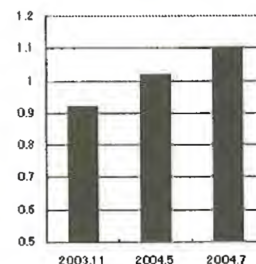
次に体重割りだが、これは自分が持ち上げる事ができた重さ（MAX）を自分の体重で割った値である。つまり自分の体重の何倍持ち上げる事ができたかを示す値である。例えば体重100Kgの選手と60Kgの選手では体の大きさも違うので大きい選手が強いのは当然であるといえる。体重割りの数値を用いる事により選手間の比較や、個人の目標をたてるのに使いやすい評価の仕方である。この数値が高い選手ほど身体能力が高いといえる。ベンチプレス体重割りのチーム平均は2003年11月0.92、2004年5月1.02、7月1.10であった。

最後にベンチプレスの伸び率だが、これは今回のMAXを前回のMAXで割って100をかけて％でだした値である。前回のMAXを100％として今回のMAXがどれだけ伸びているかを評価する事ができる。この数字を評価する際に気をつけなければならないのは、今までウエイトトレーニングをほとんどしていなくて筋力レベルが低い選手と、既に高い筋力レベルにある選手とでは一概に比較できないという事である。当然、筋力レベルが高い選手ほどそれ以上の伸び率は低くなってしまう。例えばMAXが60Kgの選手が3ヶ月後に120％増の72Kgを持ち上げる事は比較的容易だが、MAXが100Kgの選手が同じように3ヶ月後に120％増の120Kgを持ち上げる事は非常に困難であるという事である。この点をふまえた上で、選手の筋力がどれだけ伸びているか、どの程度しっかりウエイトトレーニングを行なってきたかを評価する事ができる。この伸び率のチーム平均は2003年11月～2004年5月は108.6％、2004年5月～7月は105.4％であった。



大会スタッフ（チーム提供写真）





これらの評価の仕方を用いて、MAX測定後に選手の筋力や取り組みを評価しその後のトレーニング指導を行なった。また各選手の所属のチームに測定結果を送付し、所属チームにおいてトレーニングをしていただけるように依頼した。

大会結果・考察

結果は予選リーグを4勝1敗の2位で通過し、準決勝、3・4位決定戦で韓国、イランに敗退し4位であった。

ベンチから試合を見た感想としては、日本はスピードやクイックネスといったフィジカル要素では優っていると感じたが、ストレングス（筋力、パワー）の部分においては日本よりも上位のチーム（クウェート、韓国、イラン）と比較すると劣っていると感じた。ハンドボールに限らずスポーツにおいてのパフォーマンスは、フィジカルの上に技術が上乗せされている。技術をフィジカルが支えているとも言える。例えばどんなに技術

が優れている選手がいたとしても、筋力・パワーが弱ければ少しコンタクトされただけでバランスを崩したりと自分の持ち味であるプレーができなくなってしまう。また、どんなに持久力に優れていようと、筋力・パワーが弱く相手のコンタクトに耐える事ができなければどんどんスタミナは消費されていきゲーム後半まで持久的能力は持たなくなってしまう。このような面でフィジカルのうちストレングスは重要な要素といえる。特に中央を守る選手は相手ポスト選手に良い位置を与えないように押し出したり、相手フローターのカットインをはじいたり抱き込んだりするプレーが多いので強いストレングスが必要であるといえる。今回の日本の中央を守る選手はストレングスが弱かったためにこのようなプレーができなかったと話している。

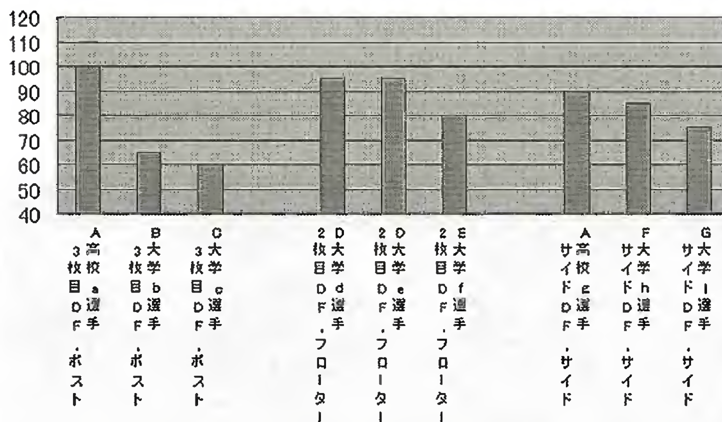
今回の日本は、ストレングスが強くても技術が低い対戦相手には勝つことはできたが、技術とストレングスを兼ね揃えた対戦相手には勝つことができなかったと言える。

課　題

フィジカルの面で一番の課題はストレングス（筋力・パワー）である。この年代のベンチプレスの体重割の目標値として、中央を守るような大型選手は 1.3、それ以外の選手は 1.4 を目標とし、計画的なトレーニングを実施することが必要であると考える。

＊今回は筋力の指標としてハンドボールにおける重要性、簡便性からベンチプレスを選択したが、ベンチプレスだけ行なって数字が上がったからといって課題のストレングスが改善されるわけではない。

ベンチプレスMAXポジション別学校・個人差



まとめ：アドバイスと提言

国内においては、ウエイトトレーニングを本格的に取り入れているチームが少なく、ほとんどのチームにおいてストレングスのレベルは高くないため、極端な言い方をすれば技術練習だけで高校や大学のトップレベルの選手になることも可能である。しかしそのような選手がアジアをはじめとする国際大会で強いストレングスの選手と対戦すると、自分の長所である技術が相手のストレングスに消されてしまうことがある。

選手がウエイトトレーニングを実施する際に大切な要因の一つとしてトレーニング環境がある。今回ジュニアの筋力測定を行なって、各個人間で差があるのはもちろんだが大学間においても差があると感じた。ジュニアの年代では選手は学校に通っているし、予算の問題もあり長期間の合宿を組んだり合宿の頻度を多くする事が難しい。つまり、所属チームでのトレーニングが重要となっている。各大学、高校でジュニアに選ばれた選手が所属チームでトレーニングを行なう環境として、チーム練習としてウエイトトレーニングを行なっているチームがある一方、トレーニング施設が整っていなかったり、施設は良いがチームとしてウエイトトレーニングの重要性に関する認識が低かったりということもある。このような環境において、ジュニアに選ばれた選手が一人で質の高いトレーニングを継続する事は難しい。

今後の改善案としては、合宿の頻度を増やし合宿の中でトレーニング指導を行い動機づけを行なう。そして選手が所属の学校においてもトレーニングを継続できるような環境（施設、チームの雰囲気等）を整備する。現在行なわれているNTSシステムにウエイトトレーニングを取り入れるのも一つの案ではなかろうか。



会場でリラックスする選手（チーム提供写真）

「初」に感動、集客に力

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

日本リーグ「ＡＮＡ　ＣＵＰ」プレーオフは「初」づくしだった。男子の大崎電気優勝が「初」なら、広島メイプルレッズの７連覇も女子では「初」である。また、入れ替え戦を加えた６試合のうち延長１試合を含め２点差以内が５試合。これほど緊張感のあったプレーオフは過去になかったのではなかろうか。

どの戦いも手に汗握る、最後まで勝負の行方が分からないものだった。詰めかけた多くのサポーターも満足のいくものだったに違いない。

観客は１試合平均1,511人。前年をわずかに下回ったが、最終日の男女決勝は実に見ごたえがあった。また、選手紹介や表彰など新機軸が盛り込まれ、何か新鮮なイメージがあったのはうれしかった。

さて、大崎電気、メイプルレッズとも決して楽な戦いではなかった。むしろ「これほど苦しくなるとは」の感すらあったのではなかったか。やってみなければ分からないのが勝負―を実感させられたと言ってもいいだろう。栄冠達成にはともに「勝負への執念」がわずかに相手を上回ったのだろう。

こうした感動に出会えたファンは幸せだった。こうした感動、緊迫感、緊張感を新たなシーズンにつなぎたいものである。ある関係者は「まだまだ…。もっとファンを呼び込まなければダメ」と話していたが、日本リーグや他の戦いがもっとレベルアップし、接戦が増えれば、必ず多くのファンをコートにくぎ付けさせることが可能だろう。

それにはスタッフの努力だけでは難しい。また、任せておけばだけでは困難である。肝心なのはコートで戦う選手の気持ちである。

「ハンドボールをメジャースポーツにしたい。そのためには日本代表としてどうしても北京五輪に出場したいんだ」

男子の最高殊勲選手賞に輝いた大崎電気・宮崎大輔選手が記者会見でこう語った熱い心を全選手が共有してこそ達成できることだろう。「メジャーに」「五輪に」の思いは誰もが持ち合わせている。しかし、これからはその思いをもっとグレードアップして、コートに爆発させ、ファンを惹きつけることではないだろうか。

現役を続ける以上は、アマチュアとはいえハンドボール中心の生活をすべきである。選手はハンドボール界を背負って立つ「宣伝塔」であることを忘れないでもらいたい。

2005年シーズンも本格的なスタートとなりました。NTSが2000年にスタートして以来6年目、ますます充実したシステムを目指し、今年度も進んでまいりたい所存です。皆様からの一層のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

以下、2005年度、基本方針をご報告させていただきます。

NTS 2005 基本方針

1、システムとしてのNTSのピーアール
2、緊縮予算の有効活用（JHLとの共同運営）
3、強化指導スタッフのレベルアップ
4、都道府県でのNTS構築支援啓蒙

具体的な施策

1、システムとしてのNTSのピーアール



NTSをシステムとして日本協会の各委員会・各連盟と連携
機関紙・スポーツイベントを活用してのPR
ブロック技術委員から都道府県の理事会へプレゼンテーション

2、緊縮予算の有効活用（JHLとの共同運営）



技術委員会を柱とした、日本協会事業との連携
NTSセンタートレーニングと日本リーグウィンターキャンプとのタイアップ
自主参加・自助努力による自己財源での運営方策検討

3、強化指導スタッフのレベルアップ



強化委員会Underスタッフチームによるブロックトレーニング実施内容策定
NTSスタッフとUnderスタッフチームによるブロック&センタートレーニング実施
国際大会の分析結果から、指導指針を決定しシュミレーション実施

4、都道府県でのNTS構築支援啓蒙



都道府県レベルでのNTSを実施するための啓蒙&ピーアール
都道府県レベルでのNTSを実施するための構築支援
都道府県の指導インストラクターとマネジメントスタッフの設置育成

チュニジア世界選手権から見えた世界の流れ

新旧交代の兆し

既に皆さんは本年１月末から２月にかけてアフリカ・チュニジアで行われた男子世界選手権の結果についてご存知だと思います。今回は若干違う視点から大会を振り返ってみたいと思います。日本代表が８年ぶりに出場した世界選手権でした。アテネオリンピック後ということもあり、各国のお国事情が汲み取れた大会ではなかったでしょうか。過去トップ４の常連であったロシア、スウェーデン、ドイツは明らかに新旧交代の波を受けもがき苦しみ、元世界チャンピオンの意地を見せ続けているフランス、球技の伝統国であったユーゴスラビアから分裂したセルビア・モンテネグロ、スロベニアといった国々の復活、アテネオリンピックで上昇機運に乗ったギリシャ、怪我に苦しまなければ紛れもなく金メダリストであったクロアチア、アジアトップ２中東勢の惨敗と第３位として出場した日本代表の頑張り、スカンジナビアの隠れた実力者ノルウェーの大健闘、国内リーグの盛況を代表チームの結果に結びつけたスペイン、地元の大声援を味方につけ、数々の歴史を塗り替えたチュニジアなど、各チームとも様々なドラマがあったようです。

日本チームが見せた可能性

決勝戦のスコアーが物語っているように、３年前のルール改正後単なる新戦術として各国が取り入れてきたクイックスタート（こちらではクイックスロー）が定着してきたことにより、クイックスタートを活用しないチームにもゴール後素早くゲームを「進行」させる意識が高く、ハンドボールの競技性自体がスピード化されたように感じます。

８年ぶりの世界大会で日本代表がどんなパフォーマンスを見せるか、大変興味を持って観戦させて頂きました。国内の皆さんは結果だけで判断され世界との差は未だ大きいと感じられているかもしれませんが、（実際に戦った選手達もそう感じたかもしれませんが）それは大変危険で残念な判断です。選手個々のパフォーマンスは十分世界のトップに通用するものでしたし、デンマークやスウェーデンの放送の中でも、ベストパフォーマンス集に田場選手、宮崎選手、松林選手らが登場したり、特に田場選手は５位にランクされていました。もちろん他の選手も十分通用する可能性を持っていると思います。今後はそれらを短時間で効果的に化学反応を起こさせ「爆発」させるかが世界のヒノキ舞台で勝利を収める要因のひとつになるのではないでしょうか。

国内リーグの盛り上がりと強化

前述したスペインの優勝要因のひとつに国内リーグの活況が上げられます。シューダットレアル、ＦＣバルセロナ、ポートランドサンアントニオなど、エリートリーグはドイツのブンデスリーグに匹敵するクラブを持ち、各国のスーパースターと自国の選手を戦わせるシステムを自然と築き上げています。逆に苦戦を強いられた強豪国の選手達はドイツやスペインに「出張」しているのです。どの方法がベストとはいえませんが、選手を海外のトップリーグに送り込む、国内リーグにスーパースターを呼び込み国内ゲームを盛況にする、距離的不利を時間的優位に置き換え長期間選手を強化する、など自国の選手を強化するシステムの構築はもちろんですが、現在行われている強豪国の現状も観察してみるといろんな方法があり、何かしらヒントが見つかるかもしれません。

個人的には今回ノルウェーの戦い方と大会に対する準備に大変興味を覚えました。SG フレンスブルグに代表メンバーがいますので、機会があれば聞いてみたいと思います。



SG フレンスブルグのホームゲーム終了後の風景。この試合 7000 人の観客が入る。

第3回ハンドボールコーチング研究会開催される



日本ハンドボール協会
指導委員会研究部会
舎利弗　学（学法福島高校）

平成17年3月20日、渋谷：ホテルサーブ会議室において、第3回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本年は昨年と同様、日本リーグプレーオフに併せての開催となりました。本研究会は、全国の指導者が自身の経験・知見を持ち寄り、伝え合う場として位置付けられております。学術的な研究を中心としたものではなく、実際の現場で有用な情報を寄与する機会として、平岡秀雄先生（東海大学）を中心に3年前、熊本県山鹿市で第1回が開催され、早くも第3回を迎えることとなりました。学術的にも評価される研究の場でありたいとも考え、本研究会で発表した内容は、日本ハンドボール協会発行の「ハンドボール研究」に原著論文として発展させ、投稿できることとなりました。

本年は発表申し込みも9件となり、発表者も大学院生から高校・大学の教員、一般企業の方まで幅広く、また、発表内容も動作・ゲーム分析から地域における普及強化に関する内容まで多岐に渡りました。U-23男子監督の田村修治先生や日本ハンドボール協会の栗山氏を始め、全国トップレベルのコーチの発表は大変興味深く、また、コーチとしての鋭い質問や、心和むアドバイスなども交わされ、和やかな雰囲気の中にも、熱のこもった意見交換が行われた有意義な会となりました。今後も、先生方だけでなく多くのコーチを巻き込み、ハンドボールの指導・分析視点や事例を発表して頂き、切磋琢磨していきたいと考えます。また、全国の熱心なコーチを多く集めて、「ハンドボール学会」にまで発展させられればと考えております。

（ハンドボール研究会の発表につきまして次号以降で報告を連載致します。）



コーチング研究会参加会員
（順不同・敬称略）

明石光史（福岡大学）
笹倉清則（日本女子体育大学）
清水宣雄（国際武道大学）
田中　守（福岡大学）
中島昭博（花巻北高校）
平岡秀雄（東海大学）
舎利弗学（学法福島高校）
田村修治（東海大学）
西　剛志（福岡大学）
栗山雅倫（日本ハンドボール協会）
山本忠志（兵庫教育大学）
白井克佳（国立スポーツ科学センター）
角　紘昭（日本ハンドボール協会）
松喜美夫（函館大学）
藤井　透（ダートフィッシュ・ジャパン）
森田俊介（山口大学）
安達隆博（中京大学）
小笠原一生（産業技術総合研究所）
柏葉公平（新興製作所）
安倍富士男（盛岡白百合学園高校）

開会の挨拶　常務理事　平岡秀雄
協会代表挨拶　常務理事　角　紘昭
発表演題：

1 NTS体力評価活用の事例	西剛志（福岡大学）
2 ハンドボール競技におけるゴールキーパーの体力特性	明石光史（福岡大学）
3 ハンドボールのゴールキーパーにおける動き出しとパフォーマンス能力の関係	栗山雅倫（日本ハンドボール協会）
4 ビデオコーチングソフトウェア　ダートトレーナーの機能概要	藤井透（ダートフィッシュ・ジャパン）
5 世界トップチームの戦術	田村修治（東海大学）
6 ハンドボールにおけるレフェリングの難しさの原因は何か	清水宣雄（国際武道大学）
7 外傷・障害予防を目的としたトレーナーステーションの設置	森田俊介（中四国学生ハンドボール連盟）
8 ハンドボールの分析から見たチーム間差に対する有効な攻撃戦術に関する研究	山本忠志（兵庫教育大学）
9 地域におけるハンドボールの普及強化に関する事例研究 Part II	中島昭博（花巻北高等学校）

がんばれハンドボール10万人会

サポート会特別会員

私たちはハンドボール競技を応援しています

大阪ハンドボール協会顧問
大阪市ハンドボール連盟会長

山田　稔

大阪府藤井寺市春日丘二―三―二三
電話　〇七二九―五二―二三一九

総社市ハンドボール協会
理事長

村木理英

〒719―1156
岡山県総社市門田五〇七

第11回西日本小学生ハンドボール交流大会「ピーチカップ」にご参加頂きありがとうございました。来年は平成18年1月21～22日に開催予定です。皆様ぜひ総社市きびじアリーナへお越し下さい。

財団法人神奈川県体育協会副会長
神奈川県ハンドボール協会会長

斎藤達也

〒二二〇―〇〇四一
横浜市西区戸部本町四―一八
電話　〇四五―三二四―一二三二

元松山商科大学教授
元日本ハンドボール協会理事
元全国高等学校ハンドボール部常任委員
元四国ハンドボール協会理事長
元愛媛県ハンドボール協会理事長
平成十四年勲四等瑞宝章受章

松山市石手三丁目六番二〇号
電話　〇八九―九七七―一六四八

越智　武

越智紀子

越智　誠

北海道ハンドボール協会副理事長
日本大学ハンドボール部ＯＢ会会長

山辺文彰

北海道釧路市春採五―十五―一

塩川安賢

〒一四三―〇〇二四
大田区中央三―十三―十一

福島県ハンドボール協会顧問

今野雅益

福島市伏拝字台田五―十三

杉山広樹

〒187―0031
東京都小平市小川東町
二―十三―五―五〇五

スコアールーム①　全日本実業団ハンドボールチャレンジ2005

期　日：平成17年2月11日(金)～13日(日)
会　場：春野総合運動公園体育館

■1回戦

ブラザー工業(愛知)　16（4－9、12－7）16　新日本石油根岸(神奈川)
（2 7mTc 0）
トクヤマ(山口)　28（15－5、13－10）15　新日鉄名古屋(愛知)
豊田自動織機(愛知)　19（8－10、11－5）15　セントラル自動車(神奈川)
マツダ(広島)　33（18－9、15－8）17　日本耐酸壜工業(岐阜)
高知クラブ(高知)　51（25－3、26－6）9　日本原子力研究所(茨城)
北電エコまる(福井)　24（12－6、12－9）15　周南市役所(山口)

■2回戦

八光自動車工業(大阪)　31（18－5、13－3）8　ブラザー工業(愛知)
トクヤマ(山口)　20（12－9、8－10）19　豊田自動織機(愛知)
高知クラブ(高知)　26（10－9、16－10）19　マツダ(広島)
金沢市役所(石川)　29（13－8、16－10）18　北電エコまる(福井)

■準決勝

八光自動車工業(大阪)　31（17－8、14－5）13　トクヤマ(山口)
高知クラブ(高知)　24（10－12、14－8）20　金沢市役所(石川)

■3位決定戦

金沢市役所(石川)　20（11－7、9－9）16　トクヤマ(山口)

■決　勝

八光自動車工業(大阪)　21(14—10、7—6)16　高知クラブ(高知)

＜敗者戦＞

■1回戦

新日本石油根岸(神奈川)　35（18－10、17－14）24　日本原子力研究所(茨城)
日本耐酸壜工業(岐阜)　23（12－8、11－13）21　周南市役所(山口)

■2回戦

新日本石油根岸(神奈川)　29（17－3、12－9）12　新日鉄名古屋(愛知)
セントラル自動車(神奈川)　32（12－3、20－9）12　日本耐酸壜工業(岐阜)

■決　勝

セントラル自動車(神奈川)　24(14—9、10—9)18　新日本石油根岸(神奈川)

＜最終順位＞

優　勝　八光自動車工業(大阪)
準優勝　高知クラブ(高知)
第3位　金沢市役所(石川)

＜最優秀選手＞

泉原　正典(八光自動車工業)

スコアールーム②　平成16年度・第28回全国高等学校ハンドボール選抜大会

期　日：平成17年3月24日(木)～29日(火)　6日間
会　場：常総運動公園総合体育館(守谷市)、水海道市民体育館、岩井市立総合体育館、茨城県立守谷高等学校体育館、茨城県立水海道第二高等学校体育館、茨城県立岩井高等学校体育館

【男子】

■1回戦

育　英(兵庫県)　33(15－9、18－15)24　県立東根工業(山形県)
熊本国府(熊本県)　26(10－4、16－11)15　県立紀北農芸(和歌山県)
府立北嵯峨(京都府)　24(11－4、13－9')13　県立松山工業(愛媛県)
東海大菅生(東京都)　27(14－8、13－11)19　県立岐阜北(岐阜県)
浦和学院(埼玉県)　37(18－11、19－8)19　大分国際情報(大分県)
県立伊奈(茨城県)　34(16－14、11－13)32　此花学院(大阪府)
(2−3延長5−2)
岡崎城西(愛知県)　24(13－12、11－7)19　県立塩山(山梨県)
横浜創学館(神奈川県)　31(15－14、16－8)22　学校法人石川(福島県)

■2回戦

法政大学第二(神奈川県)　31(16－14、15－14)28　育　英(兵庫県)
県立小林工業(宮崎県)　26(14－6、12－10)16　県立岩国工業(山口県)
県立川口東(埼玉県)　25(13－11、12－11)22　北海道札幌月寒(北海道)
愛　知(愛知県)　39(19－10、20－12)22　熊本国府(熊本県)
県立不来方(岩手県)　34(18－7、16－7)14　府立北嵯峨(京都府)
県立藤代紫水(茨城県)　32(19－13、13－16)29　瓊　浦(長崎県)
市　川(千葉県)　30(15－11、15－16)27　県立総社(岡山県)
北　陸(福井県)　35(18－6、17－12)18　東海大菅生(東京都)
浦和学院(埼玉県)　32(16－8、16－13)21　県立下松工業(山口県)
県立富岡(群馬県)　25(15－16、10－8)24　県立盛岡第一(岩手県)
県立氷見(富山県)　28(13－11、15－11)22　県立四日市工業(三重県)
県立伊奈(茨城県)　34(13－11、21－15)26　県立香川中央(香川県)
岡崎城西(愛知県)　29(15－14、14－12)26　府立向陽(京都府)
長崎日本大学(長崎県)　31(14－9、17－5)14　北海道釧路湖陵(北海道)
熊本市立千原台(熊本県)　36(15－8、21－9)17　県屋代(長野県)
興　南(沖縄県)　31(16－9、15－12)21　横浜創学館(神奈川県)

■3回戦

県立小林工業(宮崎県)　27(15－11、12－14)25　法政大学第二(神奈川県)
愛　知(愛知県)　40(21－5、19－10)15　県立川口東(埼玉県)
県立藤代紫水(茨城県)　26(13－9、13－14)23　県立不来方(岩手県)

北　陸（福井県）	40（20−12、20−13）25	市　川（千葉県）
浦和学院（埼玉県）	36（19−６、17−13）19	県立富岡（群馬県）
県立伊奈（茨城県）	27（13−12、14−９）21	県立氷見（富山県）
岡崎城西（愛知県）	33（13−15、20−14）29	長崎日本大学（長崎県）
興　南（沖縄県）	35（18−９、17−14）23	熊本市立千原台（熊本県）

■準々決勝

県立小林工業（宮崎県）	33（14−13、19−15）28	愛　知（愛知県）
北　陸（福井県）	34（16−16、18−13）29	県立藤代紫水（茨城県）
浦和学院（埼玉県）	36（18−９、18−12）21	県立伊奈（茨城県）
興　南（沖縄県）	28（15−11、13−９）20	岡崎城西（愛知県）

■準決勝

県立小林工業（宮崎県）	31（15−９、16−12）21	北　陸（福井県）
興　南（沖縄県）	40（20−９、20−11）20	浦和学院（埼玉県）

■決　勝

興　南（沖縄県）　36（19−16、17−13）29　県立小林工業（宮崎県）

【女子】

■1回戦

宣真（大阪府）	32（15−13、17−15）28	県立伊奈（茨城県）
県立吉井（群馬県）	24（18−７、６−８）15	宮崎学園（宮崎県）
白梅学園（東京都）	34（21−５、13−７）12	県立湯沢（秋田県）
県立華陵（山口県）	18（10−６、８−10）16	県立高山（岐阜県）
筑紫女学園（福岡県）	21（９−７、12−13）20	県立郡山東（福島県）
中京女子大学附属（愛知県）	33（18−11、15−15）26	県立那覇西（沖縄県）
聖和学園（宮城県）	34（17−６、17−７）13	県立静岡城北（静岡県）
県立大分鶴崎（大分県）	31（12−17、19−11）28	小松市立（石川県）

■2回戦

県立福井商業（福井県）	19（10−13、９−５）18	宣　真（大阪府）
県立玉野光南（岡山県）	25（15−５、10−15）20	桜花学園（愛知県）
県立不来方（岩手県）	19（10−９、９−９）18	夙川学院（兵庫県）
県立吉井（群馬県）	26（10−８、16−６）14	北海道札幌月寒（北海道）
白梅学園（東京都）	28（16−８、12−６）14	県立香川中央（香川県）
府立洛北（京都府）	27（13−６、14−９）15	熊本国府（熊本県）
県立氷見（富山県）	23（９−９、14−13）22	浦和実業学園（埼玉県）
県立陽明（沖縄県）	36（19−６、17−７）13	県立華陵（山口県）
昭和学院（千葉県）	35（15−11、20−11）22	筑紫女学園（福岡県）
県立水海道第二（茨城県）	25（９−７、16−12）19	県立松山北（愛媛県）
高岡向陵（富山県）	26（９−６、17−８）14	県立栃木商業（栃木県）
四天王寺（大阪府）	31（17−３、14−11）14	中京女子大学附属（愛知県）
聖和学園（宮城県）	34（19−４、15−２）６	北海道紋別北（北海道）
文化女子大学附属杉並（東京都）	20（９−10、11−９）19	高　水（山口県）
県立横浜南陵（神奈川県）	23（13−７、10−６）13	初芝橋本（和歌山県）
県立大分鶴崎（大分県）	28（12−10、16−９）19	暁（三重県）

■3回戦

県立玉野光南（岡山県）	17（７−８、10−６）14	県立福井商業（福井県）
県立吉井（群馬県）	21（８−９、13−10）19	県立不来方（岩手県）
白梅学園（東京都）	22（９−６、13−７）13	府立洛北（京都府）
県立陽明（沖縄県）	26（15−８、11−13）21	県立氷見（富山県）
昭和学院（千葉県）	30（15−６、15−10）16	県立水海道第二（茨城県）
四天王寺（大阪府）	27（14−10、13−10）20	高岡向陵（富山県）
文化女子大学附属杉並（東京都）	31（15−７、16−13）20	聖和学園（宮城県）
県立大分鶴崎（大分県）	23（12−12、11−８）20	県立横浜南陵（神奈川県）

■準々決勝

県立吉井（群馬県）	26（16−８、10−12）20	県立玉野光南（岡山県）
県立陽明（沖縄県）	23（13−14、10−８）22	白梅学園（東京都）
四天王寺（大阪府）	21（10−12、11−８）20	昭和学院（千葉県）
文化女子大学附属杉並（東京都）	26（14−５、12−12）17	県立大分鶴崎（大分県）

■準決勝

県立陽明（沖縄県）	28（12−10、16−８）18	県立吉井（群馬県）
四天王寺（大阪府）	33（15−９、18−11）20	文化女子大学附属杉並（東京都）

■決　勝

県立陽明（沖縄県）　19（8−11、11−7）18　四天王寺（大阪府）

平成16年度　チーム数・選手数一覧表

（財）日本ハンドボール協会　2005/03/29　現在

	種別	一般L		一般A		大　学		高　専		高　校		中学生		小学生・少年団		リージョナル		合　計	
No.	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北 海 道	0	0	20	279	27	421	1	24	61	1,095	15	330	5	95	9	138	138	2,382
2	青 森 県	0	0	11	193	5	75	1	23	21	412	0	0	1	16	0	0	39	719
3	岩 手 県	0	0	8	121	4	61	1	21	41	900	32	793	3	78	23	336	112	2,310
4	宮 城 県	0	0	7	103	12	224	1	25	45	1,090	17	352	0	0	2	30	84	1,824
5	秋 田 県	0	0	7	82	3	34	1	20	12	265	5	96	0	0	0	0	28	497
6	山 形 県	0	0	7	105	1	18	1	15	18	404	5	64	0	0	0	0	32	606
7	福 島 県	0	0	6	91	3	38	0	0	39	699	25	648	2	52	0	0	75	1,528
8	茨 城 県	0	0	9	146	4	82	0	0	54	812	20	411	7	137	8	115	102	1,703
9	栃 木 県	0	0	3	51	3	54	0	0	19	368	13	289	1	30	5	51	44	843
10	群 馬 県	0	0	6	109	1	14	0	0	17	316	18	369	0	0	2	38	44	846
11	埼 玉 県	1	20	13	207	7	89	0	0	87	1,753	37	730	2	31	1	10	148	2,840
12	千 葉 県	0	0	8	136	7	124	0	0	57	972	26	327	5	88	11	125	114	1,772
13	東 京 都	1	21	16	292	45	796	2	34	142	2,513	61	719	2	38	48	810	317	5,223
14	神奈川県	0	0	13	206	12	210	0	0	144	2,297	70	967	1	12	13	190	253	3,882
15	山 梨 県	0	0	6	101	3	31	0	0	24	473	13	256	2	62	7	109	55	1,032
16	長 野 県	0	0	8	115	2	26	0	0	27	448	10	212	2	62	0	0	49	863
17	新 潟 県	0	0	5	62	4	65	1	19	13	266	2	30	2	30	3	35	30	507
18	富 山 県	0	0	9	137	3	48	1	19	25	475	32	659	12	208	4	54	86	1,600
19	石 川 県	1	20	10	151	3	45	1	14	24	391	23	537	0	0	2	31	64	1,189
20	福 井 県	1	14	6	75	1	10	1	15	20	410	15	352	7	106	3	34	54	1,016
21	静 岡 県	0	0	16	213	4	58	1	14	47	942	6	161	0	0	0	0	74	1,388
22	愛 知 県	5	96	11	201	28	449	1	30	242	4,993	168	3,935	3	137	0	0	458	9,841
23	三 重 県	1	18	8	122	3	40	1	24	40	650	30	620	4	49	0	0	87	1,523
24	岐 阜 県	0	0	13	181	4	59	1	24	49	975	54	1,074	4	141	2	16	127	2,470
25	滋 賀 県	0	0	5	79	4	56	0	0	22	449	13	302	0	0	1	12	45	898
26	京 都 府	0	0	8	110	15	210	1	13	39	651	21	405	18	457	14	119	116	1,965
27	大 阪 府	1	14	8	118	27	452	1	23	90	1,156	32	441	3	52	0	0	162	2,256
28	兵 庫 県	0	0	5	99	15	254	2	27	88	144	31	53	7	26	6	79	154	682
29	奈 良 県	0	0	5	83	6	84	1	16	29	472	19	296	3	50	0	0	63	1,001
30	和歌山県	0	0	5	66	2	33	1	22	20	333	14	319	1	30	7	84	50	887
31	鳥 取 県	0	0	3	64	1	19	1	30	16	298	6	118	0	0	1	10	28	539
32	島 根 県	0	0	2	26	1	12	1	20	10	201	6	61	0	0	0	0	20	320
33	岡 山 県	0	0	9	130	5	69	1	0	51	864	12	270	7	149	4	44	89	1,526
34	広 島 県	2	31	3	46	7	59	1	0	20	375	8	148	1	44	1	8	43	711
35	山 口 県	0	0	12	173	1	12	2	38	31	709	24	444	3	167	3	43	76	1,586
36	香 川 県	0	0	4	62	3	39	1	8	24	370	20	441	3	84	0	0	55	1,004
37	徳 島 県	0	0	1	18	3	32	0	0	12	215	0	0	0	0	3	36	19	301
38	愛 媛 県	0	0	7	122	5	78	0	0	32	775	6	147	1	23	0	0	51	1,145
39	高 知 県	0	0	6	77	2	25	1	19	12	157	8	112	0	0	5	43	34	433
40	福 岡 県	0	0	5	92	12	230	3	78	51	857	20	373	5	54	0	0	96	1,684
41	佐 賀 県	1	18	3	48	0	0	0	0	13	246	6	96	4	60	0	0	27	468
42	長 崎 県	0	0	7	112	2	22	1	29	30	627	14	253	3	49	0	0	57	1,092
43	熊 本 県	2	39	3	58	4	52	2	42	53	1,005	37	614	23	512	0	0	124	2,322
44	大 分 県	0	0	8	101	1	18	0	0	13	190	13	214	11	190	0	0	46	713
45	宮 崎 県	0	0	4	50	1	11	1	25	30	479	17	246	9	122	6	77	68	1,010
46	鹿児島県	1	17	5	74	3	58	1	22	32	550	15	364	3	65	4	44	64	1,194
47	沖 縄 県	0	0	12	187	6	103	0	0	68	1,396	51	1,359	23	464	16	222	176	3,731
	合　計	17	308	356	5,474	315	4,999	38	733	2,054	36,438	1,090	21,007	193	3,970	214	2,943	4,277	75,872

協会だより

平成16年度第2回評議員会

日　時：平成17年2月5日（土）
場　所：明治神宮会館第一研修室
出席者：(敬称略、名簿順)
　評議員：武田節夫、齋藤浩、谷藤勝美、千田文彦、大村久、伊藤宏幸、五味崇恵、滝口三郎、森川利昭、奥山仙治郎、青木崇、中山圭三、寺垣俊彦、久保田龍治、村木啓作、川畑幸永、杉本眞一、東嘉伸、狩野幸介、中川敏文、田中秀和、松原紀機、森江和吉、後山富士水、山本一、長尾輝夫、田中達男、有光正憲、田中守、甲斐忠義、井薫、一万田尚登、本田娟一、島崎政治、川原繁樹　以上35名
　理事：渡邊佳英、山下泉、市原則之、大西武三、松原光三、角紘昭、齊藤實、石井勝、蒲生晴明
　監事：大野金一、竹野奉昭、殿水幸雄
　オブザーバー：藤本昇、福地賢介
　事務局：4名

〈理事会成立の確認〉
　定刻に開会、成立の確認後、会長が議長となり議事が進行する。

　議長の渡邊会長より、チュニジアの世界選手権における日本の結果についての報告がある。決勝リーグには進出出来なかったものの、2勝3敗と熊本の世界選手権以来の勝利を収め、北京へ向けての好感触のスタートを切った。本評議員会は2008北京へ向けての執行部を決める重要な会議でもあり、沢山の意見を頂戴したいと挨拶された。

審議事項

1. 平成17年度事業計画案について
　事前配布済みの資料を用いて、特に強化、普及の説明が行われた。強化では、世界にユース（男子U・19女子U・18）のカテゴリーが設定され、日本でも一連のカテゴリー別大会に対応すべく、指導者・審判育成も含めたNTSを充実させることが説明された。普及では、新規に中学生の大会が設定されることになり、J3000プロジェクトとともに小学生・中学生世代の普及発展を目指してゆくことを確認した。

2. 平成17年度事業予算実について
　事前配布済みの資料を用いて、平成17年度予算について説明があり、承認された。

3. 日本協会各規定について
　事前配布資料（規程集冊子）について簡潔に説明があり、各規程内容に関し、特に連絡がないことが報告され、承認された。

4. 車椅子連盟加盟について
　車椅子ハンドボール連盟から、連盟規程、役員名簿、活動報告書などが添付された加盟申請が提出されていることが報告され、加盟が承認された。

報告事項

1. 平成16年度第二次補正予算
　資料により平成16年度第二次補正予算書に基づき、強化遠征事業の変更などによる予算修正が説明された。

2. 強化体制について
　蒲生理事より今後の強化体制について強化本部長就任挨拶を兼ね説明がなされた。強化推進するためにセクションを越えた協力体制と、各地区の理解と協力が要請された。
●田中評議員（福岡県）：以前から選手派遣に伴うトラブルが相次いでいるが、この対策はあるか？
　大西専務理事より、アジアレベルでは大会を動かす依頼をしてきている。所属チームへの継続依頼以外、良策がなかなか無いと回答された。
　市原副会長からは、国体そのものの見直しが検討されており、国体が国際大会とバッティングした時、国際大会を優先する傾向にあることが述べられた。
　渡邊会長からは、世界的に同義的な問題を抱えており、各国とも対策を講じていると説明がなされた。
●井評議員(熊本県)：強化施策は納得したが、マッチバイザーの対策について国際的には見習うべき対応があり、良いゲームを増やすため、また強化のために必要なことである。
　大西専務理事は、今後も厳正に対処していく旨回答をした。
●狩野評議員（兵庫県）：同様に審判技能向上も厳正に対処していくべきである。
●東評議員（大阪府）：蒲生強化本部長というカードを切ったなら、北京に向けて一枚岩でやってほしい。
●寺垣評議員（石川県）：決意は分かるが、予算書において繰越金が半減していては、いくら新体制をだしても、このような体制ではやっていけるはずが無い。予算の組み立てが理解できないがどうだろうか？
　大西専務理事より繰越金について、文部科学省の指導もあり、あまり繰越金を多くしないようにした。また、蒲生プランは、現時点ではすべて一般会計にあててあり、その為に今後鋭意マーケティング活動を推進していく予定であると説明がなされた。
　松原常務理事は、繰越金について、文科省の指導もあったので、特別積立金としたことの説明がなされた。

3. 平成17年度国内国際大会日程について
　資料に基づき説明があり、まだ未定部分もあるので、今後も変更の可能性があり、その都度訂正していくことが報告された。
●東評議員（大阪府）：JOCジュニアオリンピックカップについて、“参加チーム増”となっているが、不明瞭な部分が多いのでスケジュール表からはこの文言の削除が提案され、了解された。
●山本評議員(広島県)：ヒロシマ国際大会は、7月21日～24日であることが説明された。

4. 平成17年度会議日程について
　平成17年度の会議日程は、今評議員会から文科省指導もあり、理事会より先に評議員会を設定していることが報告された。

5. 新規大会について
　資料により、氷見で来年3月に開催される「春の全国中学生選手権大会」について、大会創設の経緯が説明された。
●村木評議員（愛知県）：この要項で確定なのかどうか、つまり予選の設定が必要であり、そのような配慮があるのか、対応準備の時間を要望したい。
　大西専務理事は、まだ、流動的な段階ではあるが、各県より1チームを出してもらいたいということ、また、今後、実情を勘案しながら進めるとした。
　角常務理事から、各県の事情を更に調査する旨、補足があった。
●村木評議員（愛知県）：後援に、例えば小中体連がなく、協会主催だと協力できない場合がある。
　市原副会長から、大会の経緯について詳細に説明があり、団体競技のレベルダウンを防ぐためスポーツ議員連盟が決起し、自治省の予算の中で動き出した経緯があり、無から一つ生まれたので、皆様のご理解とご協力をお願いされた。
●東評議員（大阪府）：大阪ではJOCカップをやっているが、この資金はJOCカップにあてたいと思っていたが、決定されたか

らには、諸事情勘案して推進していきたい。

市原副会長より、JOC大会を中学生の総合大会に移行していく計画もあり、ともかくジュニア層の強化をマクロ的に計画し、ご意見通り皆さんの協力の下、推進して行きたい。

角常務理事より、地域の実態にあわせて協力していただきたい旨、協力要請があった。

●甲斐評議員（佐賀県）：活性化には地域性があるが、各地域主催が全国連盟の名前が入っていたりなど、取り扱いが不明な点は多いが、どうなっているのか。

大西専務理事より、地方では自由参加の大会が増えていくと思うが、中学生では今まで一つしかなかった。そのため、今回のような運びで進めて行きたいと協力が依頼された。

6. がんばれハンドボール10万人会について

資料10により説明された。

7. その他

●市原副会長：ナショナルトレーニングセンター建設が決定されたこと、トップリーグ支援について協議されていること、日本リーグ30回大会を記念した行事の開催予定について報告された。

●東評議員（大阪府）：車椅子連盟対応として、都道府県レベルでの早期対応の協力要請があった。

●田中評議員（福岡県）：8月1日ルール改正の施行について説明要請がなされた。

齊藤常務理事より、本会議では資料が用意できなかったが、若干の修正はあるだろうが、8月1日より施行することが報告された。

役員選任

渡邊議長より、平成17・18年度役員選任以外の全ての審議・報告事項が終了したので、今から平成15・16年度役員任期満了に伴う平成17・18年度の役員選任について審議をするが、現法定理事は会議場に同席しない方が良いとの判断で退席が指示され、議長及び監事と評議員のみで審議に入る。

渡邊会長より、各評議員に具体的な提案の有無を確認し、特に提案が無く、現役員の退任の意志などについて状況説明が行われた。退任意思表示者以外は再任・継続を確認している旨説明された。また、連盟・ブロック代表理事もそのままの枠で継続すること、監事については現監事の再任を確認している旨説明がなされた。退任者に変わる理事として、現時点では、緒方常務理事については蒲生強化本部長に既に交替されている。齊藤常務理事（審判長）については、島田房二審判委員会委員を予定していることが報告された。また、他の新任者として、女性を是非入れたいこと、若くて動ける人材を捜していることが報告された。

審議の結果、全員異議なく、未定の理事については会長に一任することで、本件は可決承認された。

現役員が会議場に戻され着席後、退任予定の松原常務理事と斎藤常務理事より退任の挨拶がなされ、閉会した。

平成16年度2月常務理事会

日　時：平成17年2月19日（土）午前
場　所：青山メトロ会館4F
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事7名、理事1名、監事2名、事務局3名

審議事項

1. 平成16年度第三次補正予算案について

文科省の指導により決算は予算と近い方がよいとのことから、三次補正を行うことが提案され承認された。

2. 平成17年度事業計画（案）について

1月常務理事会にて提案された修正事項の追加が説明され、承認された。

3. 平成17年度事業予算（案）について

資料により説明がなされた。今予算案は、北京強化のための予算重点とした。次年度以降の登録金値上げについては中体連、高体連、学連の協力と理解が必要、各連盟とも値上げに関してはおおむね賛成を得ているが、値上げ方法についてはさらなる検討・討議が必要。北京オリンピック出場のための資金を集めなければならない。

4. 日本協会規程集について

本年4月1日より施行することが再確認された。

5. 国際大会スケジュール及び2006AHF選手権及び予選について

資料により説明がなされ。第7回ワールドゲームズ・ビーチハンドボールは実業団選手権との関係で、現在ビーチ委員会で参加を検討中。

6. 日体協新評議員・JOC理事監事選任について

日体協評議員に山下副会長、ＪＯＣ評議員に渡邊会長、理事に市原副会長を推薦する。

7. 平成17・18年度全国スポーツ指導者連絡会議代表委員選出について

表記代表委員は指導委員長の充て職であるから、現時点では笹倉委員長となることが説明された。

8. がんばれハンドボール10万人会

資料により下記の委員会案が説明され、承認された。

①サポート会会員のためのフロアー席の整備をする。
②サポート会「還元金」を2006年度より廃止する。
③新会員証を配付する。

9. 日本車椅子ハンドボール連盟加盟について

既に1月常務理事会では審議承認済み。

10. 平成17・18年役員選任について

2月5日の評議員会で理事の選任は渡邊会長に一任され、本日午後に行われる第3回理事会で理事を決定する。

大西専務理事から、今回の理事会では18名の理事候補者を発表し、3月に担当役職を決定すると提案。

11. その他

常務理事会日程：平成17年4月9日（土）を同2日（土）に変更する。

報告事項

1. プロジェクト21（競技力向上、普及）

資料を用い報告がなされた。

2. 強化施策について

資料により報告がなされた。

3. 平成17年度国内・国際大会日程について（大会要項）

資料が提示された。

4. 平成17年度スポーツ拠点づくり推進事業について

表記大会の名称は地元協会の意向を尊重して近日中に決定、競技部に一任して欲しい。

総務省に対して男女別にカップを出してもらえるよう交渉する。

同大会は全県参加とする大会であり、大会名に関しては堅苦しいものでなくし、申込期日も検討する。

5. 平成17年度会議日程について

資料により提示された。

6. 平成17年度登録について（登録業務必携）

資料が提示された。

7. 平成17・18年度役員・委員会委員登録について

資料が提示された。

8. 平成17年度スポーツ指導者海外研修事業等募集について

資料が提示された。平成17年度ハンドボール協会として推薦しない。

9. 平成17年度専任コーチ、ジュニア強化コーチについて

平成17年度ハンドボール協会として専任コーチに松井幸嗣氏、ジュニア強化コーチに蒲生晴明氏、玉村健次氏を推薦する。

10. 2004日本協会表彰、他表彰関係推薦について

資料が提示された。

11. IHF競技規則変更について

資料が提示され、本文章がそのまま新ルールブックに使われるのでない旨説明された。

12. 審判部合同会議、全国審判長会議報告

資料が提示された。

13. 2005ワールドゲームズ・ビーチハンドボール参加について

資料が提示された。

14. 平成18年度登録証案（クラブニッポン・

ポイントカード）について

資料が提示され、クラブニッポンの説明がされた。カードは、中高生にステータスのあるカードで、ハンドボールでも2005年から学連が導入する。

15. 第4回技術委員会報告

資料が提示された。

16. 少年チーム活動活性化冊子について

資料が提示された。

17. ナショナルトレーニングセンター施設案

資料が提示された。

18. 国民体育大会参加申込情報システム他アンケートについて

資料が提示された。

19. 大会結果

①第19回男子世界選手権

②全日本実業団チャレンジ2005高知大会

20. 日本リーグプレーオフについて

資料が提示された。

平成16年度第3回理事会

日　時：平成17年2月19日（土）午後

場　所：青山メトロ会館

出席者：渡邊会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、他理事12名、参事11名、監事3名、事務局3名

理事会成立の確認、議長の渡邊会長より挨拶の後議事に入る。

審議事項

※審議内容は2月常務理事会と重複するので、特に理事会で発言された内容を除き議題のみ記す。

1. 平成16年度第三次補正予算について

2. 平成17年度事業計画（案）について

3. 平成17年度事業予算（案）について

●佐分参事：登録金値上げについては、ここにいるメンバーは共通理解ができている。しかし、一般の人にもPRする必要があり、PR計画を出して貰いたいと要望された。

●高山理事：小学生3000チームは大切であるが、それに向けての予算が少ないのではないかとの指摘がなされた。

大西専務から、今予算では過去の倍額となり、少ない予算の中で精一杯やっていく旨、回答がなされた。

●高山理事：氷見で開催される中学生大会の決定経線について質問がされた。

大西専務から次のような回答がなされた。昨年9月総務省から直接市町村に対して通知、ハンドボール競技では4市町村から申し出がなされたが、選定基準を満たす氷見市を日本協会として12月推薦し、2月決定通知が来た。

市原副会長から以下の補足がなされた。短期間に決まった計画であり、地方自治法の改正に伴い、宝くじ資金活用のため、スポーツの拠点作り（メッカ作り）で地域の活性化を目的とする。100件以上の応募があった。

●佐々木参事：中体連としては喜んで参加したい。

4. 日本協会規定集について

5. 国際大会スケジュール及び2006AHF選手権及び予選について

6. 日体協新評議員・JOC理事監事選任について

7. 平成17・18年度全国スポーツ指導者連絡会議代表委員選出について

8. がんばれハンドボール10万人会

9. 日本車椅子ハンドボール連盟加盟について

10. 平成17・18年役員選任について

渡邊会長から平成17・18年度日本協会役員について、2月5日の評議員会で平成17・18年度役員選任に関し会長に一任されたことが報告。本日は、副会長1名と理事1名を除く18名について下記のようにすることが提案され、承認された。

会長推薦理事：

渡邊佳英、山下　泉、市原則之、大西武三、川上憲太、角　紘昭、江成元伸、平岡秀雄、蒲生晴明、島田房二、村松　誠、兼子　真　以上12名

連盟選出理事：全日本実業団連盟、全日本学生連盟、全国高等学校体育連盟　以上3名

ブロック選出理事：東北ブロック、東海ブロック、九州ブロック　以上3名

監事：大野金一、竹野奉昭、殿水幸雄

11. その他

ルール改正で「14名のプレーヤー」となることに関連し、平成17年度国体のチーム選手数は総枠で決められており、ルール変更後も12名とすることが提案、承認された。

報告事項

※報告内容は2月常務理事会と重複するので議題のみ記す。

1. プロジェクト21（競技力向上、普及）

2. 強化施策について

3. 平成17年度国内・国際大会日程について（大会要項）

4. 平成17年度スポーツ拠点づくり推進事業について

5. 平成17年度会議日程について

6. 平成17年度登嫁について（登録業務必携）

7. 平成17・18年度役員・委員会委員登録について

8. 平成17年度スポーツ指導者海外研修事業等募集について

9. 平成17年度専任コーチ、ジュニア強化コーチについて

10. 2004日本協会表彰、他表彰関係推薦について

11. IHF競技規則変更について

12. 審判都合同会議、全国審判長会議報告

13. 2005ワールドゲームズ・ビーチハンドボール参加について

14. 平成18年度登録証案（クラブニッポン・ポイントカード）について

15. 第4回技術委員会報告

16. 少年チーム活動活性化冊子について

17. ナショナルトレーニングセンター施設案

18. 国民体育大会参加申込情報システム他アンケートについて

19. 大会結果

20. 日本リーグプレーオフについて

21. その他

1）渡邊会長がAHF推薦のIHF理事、西山氏がIHF医事委員になったことが報告。

2）大原参事から、兵庫国体リハーサル大会として、実業団チャレンジ大会、クラブ選手権、ジャパンオープンを行うについて、協力が依頼された。

3）市原副会長から、国際交流が盛んになってきているが、都道府県レベルで国際交流を行う場合には、トラブル回避もあり、日本協会宛に事前に届け出をすることが依頼された。

理事会閉会に当たり今期で退任する、松原常務理事、石井常務理事、緒方常務理事、齊藤常務理事からそれぞれ挨拶がなされた。

大野監事からは、スポーツを取り巻く社会環境は悪くなるばかりですが頑張って貰いたい、当面は北京に向けて全力投入してほしい旨挨拶があった。

竹野監事からは、新年度に向けて新しい理事会メンバーが決まったので、日本ハンドボール界を支える気持ちで頑張ってほしい旨、挨拶があった。

殿水監事からは、今日が平成16年度最後の理事会となるので、来年度も一生懸命任を全うしたい旨、挨拶があった。

会の最後に当たり山下副会長から、新年度に向けて、①蒲生体制をいかにバックアップするか。②日本協会にスター選手がほしい。絵になる選手は協会の収入源になる。③各カテゴリーでの資金集めに、皆さんで協力して当たってほしい。皆さんで日本ハンドボール協会を支えていきましょうと締めの言葉があった。

大野監事から日頃の日本協会活動協力への感謝が述べられ、閉会となる。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫、小島　収治　【青森】鎌田孫秀　【岩手】中舘　豊　【福島】今野雅益　【茨城】田中汀子、稲吉　繁、小川雄也　【群馬】伊崎克巳　【埼玉】高田　誠、齋藤和也、坂井弘元　【千葉】石橋　茂、石橋美保、坂本静男、勝俣裕二、金牧　稔、外山朝子　【東京】後藤　登、荘林康次、松本隆平、奥井正浩、西村興八　【神奈川】植村　繁、渡辺亜由美、杉山義祥、五島孝彦　【山梨】千野恒夫　【富山】光安美津夫　【石川】谷　【福井】師田明子　【愛知】角　紘昭、蒲生晴明、西村亮治、西口貴子、間瀬和義、小山哲央、小山俶江　【三重】加藤　公　【岐阜】尾崎康弘　【京都】川原崎雅彦、藤本昇【大阪】寺内啓之、四方洋子、松林義政、幸田良一、古庄哲則、小森園多恵子、中村博幸　【兵庫】山原一晃、高祖加奈子、丸茂登茂子、丸茂康子【奈良】佐々木英明　【岡山】片山　透　【岡山】厚沢フサ子、厚沢嘉身　【広島】門田勝正　【広島】入本和男　【香川】小早川道孝　【愛媛】越智紀子　【高知】有光正憲、佐賀厚幸　【大分】渕　健児　【鹿児島】野口智春

【5月の行事予定】

【会議】

5月14日（土）　常務理事会（東京）
6月11日（土）　第1回評議員会（東京）
6月18日（土）　常務理事会（東京）
6月18日（土）　第1回理事会（東京）

【大会】

5月28日（土）～6月1日（水）
西日本学生選手権大会（福岡市）
6月26日（日）～7月2日（土）
第1回アジアユース選手権（WC予選）（ダイ・バンコック）

次号は6・7月合併号で7月1日発行です。

訃報
（財）日本ハンドボール協会審判部審査指導委員の早川清孝氏（ミュンヘンオリンピック代表選手）が去る3月29日逝去されました謹んでご冥福をお祈りいたします。

HAND BALL CONTENTS May

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール





HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

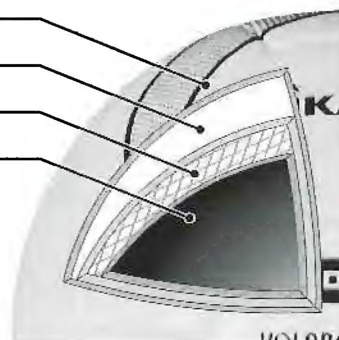
HVN300/HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます



MIKASA®
SPORTS EVERY DAY!

株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp

世界の空へ、笑顔を乗せて。

ANA

A STAR ALLIANCE MEMBER

国内線のお問合せ 0120-029-222　国際線のお問合せ 0120-029-333　www.ana.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四六〇号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十七年四月二十六日印刷 平成十七年五月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇二〇－七－〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円